

ドローンで水稻直播に挑戦

新技術「べんモリ」で土中播種、省力・低コスト化へ

5月8日(水)

大津市小松の西村幸雄さんの圃場40アールで、べんがらモリブデンコーティング水稻直播技術（以下、べんモリ）を、ドローンを用いて実践し、除草剤もあわせて散布しました。

水稻直播の一つであるべんモリは、2016年頃から普及しはじめた最新の技術で、従来の鉄コーティング直播技術より省力・低コストであるほか、土中播種ができるため倒伏に強いなどの利点があります。

西村さんから「べんモリをしてみたい」との依頼を受け、南営農経済センターの田中章吾センター長がドローンでの播種を試みました。べんモリは最新技術で先例が少ないうえ、ドローンでの播種は実例が見当たらず、飛行高度や機材の播種回転数、開口部の状況などすべてが手探りで、様々な調整をしながら行うこととなりました。

10アールあたり7分～8分で播種を終えることができ、「田植え作業がこれほど早くできるのは、かなりの省力化。また、苗の運搬作業も省ける。成功すれば、栽培面積の拡大も考慮したい」と西村さん。

田中センター長は、「西村さんとともに生育を見守りたい」としています。



水稻直播の最新技術である「べんモリ」を、ドローンで播種することで挑戦。生育経過が注目されます。